

# 未来を守る林業

名人  
的場 正明・静岡県榛原郡川根本町

聞き手  
岩垂 築・東京都成城学園高等学校2年

## ■自己紹介

こんにちは、私は的場正明とい  
います。昭和23年2月23日生まれ  
で、今は74歳です。出身地はこの  
川根本町ですよ。3人兄弟の長男  
で、3歳下の妹と6歳下の弟がい  
ます。親父が20年前、お袋も13年  
くらい前に亡くなって、体もあんな  
まり丈夫じゃなかったこともあつ  
て、お嫁さんを貰わなかったので、  
今は1人なんです。中学校から  
大学までは私だけ静岡市の方へ出  
て、卒業してからここに戻ってき



的場さんのご自宅

ました。それから林業をやっています。

## ■林業との出会い

林業に出合ったきっかけというのは、やっぱりこの家の長男として生まれたことです。仕事として林業をやるようになったのは大学を卒業して帰ってきた時。子供の時から林業に出合っていたけど、自分が手を出すに危ないからっていつて、木を伐ったりとかね、そういうことはやりませんでした。だから、それから林業をやるようになりました。

## ■1日の流れ

1日の仕事の流れは、本格的にやる、誰かの仕事を手伝いに行くっていう日の場合は、朝7時過ぎにはもう出掛けていきますよ。仕事の内容ややり具合によっては午前と午後で仕事が変わる場合もありますが、通常は1日中同じ仕事です。夕方はね、最近は、みんな帰るのが早くなったけど、

5時過ぎまでやりましたよ。今はね、みんなお昼ご飯は12時頃に1回なんだけど、50年前、その頃はね、途中で2回食べてましたよ。というのはね、9時半頃に1回お昼ご飯を食べるんですよ。それで今度はね、1時半頃になるとね、そこでもう1回ご飯を食べるんですよ。それを40代の頃、30年前くらいまではやりましたね。その2回分のご飯を、「めんぱ」ってありますよね。それに入れて持っていったね。

## ■木の植え方

木の植え方はね、土をちょっと柔らかくして、10センチくらいの深さに掘る。そして根っこがしっかり入るところまで入れて、土をかけてやって、木と木の間隔を1・7メートルくらいにして植えます。これがね、1坪に1本の割合で植えているので、この植え方を「坪植え」っていうんですよ。1回で植える本数は160〜170本。面積は植える本数次第ですよ。その時に使う道具っていうのはクワですけど、先端がツルハシのようになっていて、重さは1・5キログラムくらいですね。これを持って



木を植えるためのクワ



「めんぱ」。お弁当箱のようなもの

ね、山へ持っていくわけですよ。

## ■したが下刈り

木を植えて2年くらい経つとね、他の草がだんだん大きくなってきますよ。それをそのまま放っておくと、その草の方が大きくなっちゃうんですよ。そうすると、せつかく植えた木もダメになる。大きくならないんですよ。そこでどうするかというと、木を植えたところの草だけを刈るんですよ。それを「下刈り」といって、そうしないと木が作れないんですよ。これを7年くらいやってると、植えた木の方が大きくなって、2メートルくらいになるとね、草を刈らなくても木のほうが枝を張ってきますから、地面に光が当たらなくなって、草が抑えられちゃうんですよ。そうすればもう木だけをそのまま大きくしていけばいいということなんです。これがまず第一段階。「下刈りが抜けた」っていうんですよ。

## ■かんぱつ間伐

そうしたら今度は木が大きくなっていくとね、木と木の間隔がだんだん混み合ってくるわけですよ。ここで何をしなきゃいけないかというと、間引きをしないとダメなんです。で、それがいわゆる「間伐」なんです。間伐は、木の中の水分が少ない時期、お盆を過ぎた頃から始めます。最初の間伐はね、一定の間隔にするために伐って、適正な間隔にしてあげるわけですよ。それを1回やると、そこで残った木もさらに大きくなる。すると、また間隔が狭くなるんですよ。そこで今度は本格的な間伐をするようになります。これはチェーンソーを使ってやります。そうしないと、大きな木は伐れないですね。ノコギリで伐ったこともあるけど、よっぽど伐れるノコギリでないとダメですからね。この作業の流れが間伐というものです。そして50年くらい経つと、大きな木になるんですよ。伐採して、

商品としての価値も出てくるから売れるようになるんですよね。この作業を木が大きくなるまで、40年くらい続けます。

## ■伐採

まず最初は、木と木の間隔を見て判断します。混み合っちゃってるから、間引きをしないとしょうがないな、そういうところを見極めながらね。そして倒す木を決めて、木の倒したい方向を決めたら、下から20〜30センチのところ三角に欠込みを作るわけ。要するにノコギリとかチェーンソーで、三角形に切っちゃうわけ。そうすると今度はその反対側ね。そこに三角の欠込みのもうちょっと上に向かって、そこからすーっとノコギリを入れていくわけ。木の真ん中までいったらそこで止めて、その切れ込みに楔を打ち込むか、あるいはロープで引っ張る。そうするとこの木がね、欠込みの方向にぐーっと倒れていくわけじゃんね。三角のところと、切れ込みのところの高さの違いがあつて、切れてない部分がありますよね。これを「ツル」といって、これがあることによつて蝶番と同じ原理でね、倒れる方向を決定してくれるわけ。

伐木の作業は大きさによつても違うんだけど、上手く伐れた時には5〜6分で伐れますね。林業に必要な技術で習得に一番時間がかかったのはこの技術ですね。伐木の技術で一番大事なことはね、狙った方向へ確実に木を倒すということですね。これができないと、他の木に引っ掛けちゃったりしちゃうんですよ。もし大きい木が引っ掛かったらね、牽引具なんかを使つてもなかなか倒れないですよ。私もここ15〜16年ですね。ある程度引っ掛けずに倒せるようになったのは。

## ■架線集材

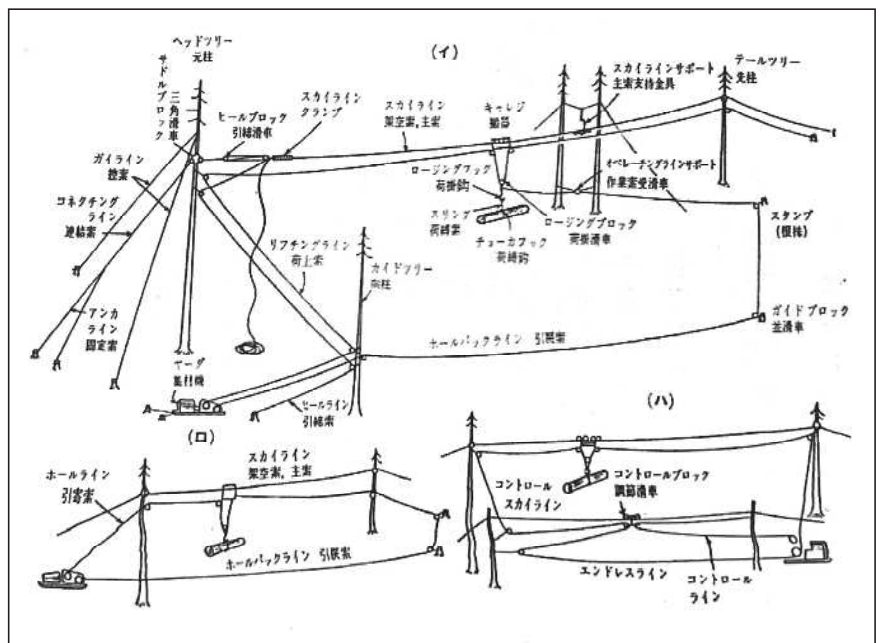
日本じゃ、もう大型機械が入れるところなんてそんなにないですよ。外

国だとね、そういう大きな機械が入れるんだけど、日本の場合はどうしても山だから、架線が必要になってくるんですよ。

架線ってのはね、山の上の方から道路のあるところまで、16〜20ミリのワイヤーを張るんですよ。そして集材機っていう機械があるんですよ。これにエンジンをつつけてね、これがぐるぐる

回るんですよ。ドラムっていうんですよ。他にも図のように道具をつけていくんだけどね、滑車をつけて、線を張って、搬機に木を束ねてね、山の上から道路まで持つていくんですよ。距離でいうと最高1000メートルの線くらいまではね、できますよ。重さは最大だと1トンくらいまで持つてきますよ。

架線集材は林業架線作業主任者っていう国家試験を受けるんですよ。これを持っていないとやってはいけませんよっていうことになってるんですよ。架線集材は危ないところもあつて、ワイヤーの線が切れたりして



架線集材の図

いうことがあるんですね。それから、木を吊り上げる時なんかもね、思わぬところに負荷がかかって、自分の方に飛んでくるっていう場合もあるんですね。だからその飛んできた木に当たってしまっただけで亡くなった、なんという事故もあるんですね。

架線の難しいところは、ワイヤーを張るまでが大変なんですよ。だつてこの山の中を通るでしょ。川があつたり、木がたくさんあつたりしてね、そういう障害になる木を伐つたり、そういうところに線を張っていくわけでしょ。そうするとなかなか、山の中だと方角がわからないでしょ。だからコンパスを使つたりして4〜5日かけて線を張っていきます。

利点は、日本のような傾斜が激しいとかね、そういう大型機械、重機で出せないような地形の悪いところでも、材木を出せるという利点があるんですね。そうやって出した木を、静岡県森林組合連合会っていうのが市場を持っているので、50年前からそこに送っています。

### ■指導林家としての活動

20年前に選ばれてそれから60歳になるまでやってたんですよ。林業研究会で役員なんかをやっていると、静岡県の人たちと関わることがあるんですよ。だからそれがきっかけで選ばれたんだと思います。

何をするかという、たとえば小学校の子どもたちにも、林業教室とかで色々教えることがあるんですよ。その時の指導員としてね、出てきてくださいよ、っていう役割です。他には川根高校っていうのがあるんですけどね、そこで椎茸の栽培とか、そういうのをやっていたんですよ。

### ■高校生の椎茸栽培体験

高校生への椎茸栽培は20年前に3年くらい連続してやったのかな。この地元の川根高校の方から県の方へ、誰か補助講師をしてくれる人って

う要望がいくらいんですよ。そうすると私は指導林家だったのもあって、高校生100人くらいに教えました。

椎茸栽培を教えるっていうんだけど、私はね、何よりも椎茸栽培の楽しみを知って欲しかったですね。まず最初にね、椎茸栽培をやっている人たちから高校生が使うための原木を100本くらい買ってくるんですよ。そして菌を入れるための穴をドリルで開けるんですよ。その穴の中に菌を入れて金槌でポンポンと打ち込みますよ。そこからの「伏せ込み」という木を並べる作業を高校生たちにやってもらいました。

教えた時の反応はね、川根高校の子は従順なところがあって一生懸命覚えてやってくれましたよ。真剣に指導を受ける、そういう態度が偉いなと思えましたね。そういうこともあって、私も教えてもらう時には真摯に教えてもらうということを常に心がけていますね。

### ■年下の林業家の育成

20年くらい前からだったと思うんですけど、町林業研究会とか林業技術者協会でみんなと一緒にやっていると、20代くらいの若い人たちが入ってきたんですよ。そういう人たちに対してね、私たちがそれまでに先輩に教わってきた林業に関する技術とかを伝えることをやりましたね。

そういうことが年下の林業家の育成になったのか、静岡県では、いかに上手に木を伐るかという伐木競技会っていうのがあるんですよ。それで10歳下の後輩が3位になったんですね。それまでも私の入っている大井川の森林組合から出た人がいたんですけど、なかなか3位なんて取れなかったですよ。そこで3位を取った彼はね、県の方からも指導員の1人として選ばれて、指導の勉強もして、今はあちこち行って教えてますよ。だからそれは若い人の育成になったなと思ってます。

でも今はもう若い人がいないですよ。入ってこないですよ。それ

に私も年齢的にね、教えるのが大変なんですよ。

## ■後継者問題

原因のひとつになってると思うのは、平成に入った頃から、外国から安い木材が入るようになってきちゃったっていうのがあると思うんですよね。これは林業だけじゃなくて全てがそうでしょう。やっぱり外国に比べて日本は地形的なことであって、かなりコストもかかるんですよ。とても太刀打ちできないですね。そういう問題が複雑に絡み合って、現在の後継者問題に繋がってるんですよ。

## ■若者に伝えたい林業の魅力

林業っていうのは非常に魅力的な仕事だと思うんですよ。たとえば、山へ入ってね、自分のアイデアで木を伐採したりかね、いろんなアイデアや工夫によってね、この木が上手く伐れたとかっていうのがあるんですよ。太い木、大きい木をね、うまく伐採できた時っていうのは、何にも変え難い喜びがあるんですよ。これがやりがいにも繋がるんですよ。

要するに林業っていう仕事はどんな作業に関しても、工夫するべきところがあって、それをひとつひとつ見つけていく



川根本町の風景

っていうところでもね、非常に面白い仕事だという風に感じますね。それとやっぱり山でね、夏の一番暑い時期、汗を流しながら下刈りをやるんですよ。もう休もうっていつて日陰に入るでしょ。すると、涼しい風がふーっと吹いてくるんですよ。あの気持ち良さっていうのは、都会の人には味わえないと思うんですよ。それが林業のやりがいになってますね。

## ■林業の未来

林業の状況が悪くなってきても20〜30年くらい経つわけでしょう。その間にみんなでいろんなことを言ったんだけどね、結局、なかなかひとつ良い方策っていうのはなかったと思うんですよ。それで一般の林家っていうのは、みんな苦しい状態にあって、後継者も外に出ざるを得ない状態になってるわけでしょう。私も大学に通ってた時は都会もいいなと思っただけど、やっぱり、山に帰ってきてみるとね、山っていいなって風に思うんですよ。だから、若い人にも自然っていうものを、ただ上辺だけのものではなくて、どこかに行ってみて、本当の自然が持つ良さっていうもの、深いものをね、理解してもらえたらいいなと思うんですよ。今の若い人たちは真剣に、深く考える力っていうものがあると思うんですよ。その力で林業の未来を考えてほしいですね。



森に向かう的場さん

〔取材日…2022年9月18日、10月23日〕

## 【聞き書きを終えての感想】



私は地球温暖化問題に関心があり、自然の中で仕事をする人に取材をしたいと思い、聞き書き甲子園に参加した。そして、静岡県川根本町で林業を営む的場さんに取材させていただくことになった。的場さんは川根本町の暮らしや、林業についてひとつひとつ丁寧に説明して下さった。2日間、計6時間半の取材は、地球温暖化や林業の後継者問題について深く知ることのできた貴重な時間となった。取材を続けていくにつれ、静岡県や川根本町への愛や林業への愛を感じ、林業の仲間から慕われてきた理由がわかった。現在、林業は外国産の輸入の影響で苦境に立たされているが、それでも林業と真摯に向き合い、若者に自然を経験して、林業を繋いでほしいという思いが、印象に残っている。また今回の取材を通して、自然に関わる職業の現状を多くの人に発信するために、聞き書き甲子園が終わった後も多くの人に取材を続けていきたいと考えている。



## profile

## 的場 正明

まとはまさあき

昭和23年2月23日・75歳

職業：林業

【略歴】 静岡県榛原郡川根本町で先祖代々受け継いできた林業を50年以上営む。森林組合や町林業研究会などで役員を務め、年下の林家の育成や、指導林家として高校生への椎茸栽培の指導員も務めた。森林組合の仲間と切磋琢磨し、新しい技術を習得し、腕に磨きをかけている。